「裏方の大切さ」

日本学生卓球連盟　会計　井岡咲乃

この度は、第6回「日学連アゴラ」に文章を掲載して頂けることに、この場をお借りしまして感謝申し上げます。どのような内容のものを書くべきか悩みましたが、日学連の会計になってみて感じたことを書かせて頂きたいと思います。

　私は今年の5月より日学連の会計を務めさせていただいています。それまでは学連を知ってはいましたが、実際にどのような仕事をしているのか全く分からない状態でした。今現在もまだまだつたない部分はありますが、以前より仕事の内容を理解してきたのではないかと感じています。また、学連の仕事を知ってその存在の大切さを改めて感じました。

　今までの人生は選手として卓球をプレーしてきて沢山の練習会や大会に出場させて頂きました。その大会には大会を運営をする人が必要となります。高校までは学校の先生や各県の連盟の方がやっていましたが、大学では選手（生徒）自身が行います。学連主催の大会では他の選手より速く集合し会場の設営、試合の進行を務め試合が終われば片付けをする。ここまでは想像できると思いますが、その他に大会の結果掲示のページを作成したり全日学等の全国大会前にはその大会に向け各学連と連絡を取り合ったりなど、この他にもいろいろな仕事があります。これらの見えない場面での仕事を行っている学連という存在があるからこそいろいろな大会が開催されていることを改めて感じました。

　これからも日学連の役員であることに誇りを持ち自分の役割（現在は会計）を全うしていきたいと思います。

最後まで読んで頂きありがとうございました。